
俺の妹がこんなにタイミング悪いだなんて

なお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺の妹がこんなにタイミング悪いだなんて

【Nコード】

N8553R

【作者名】

なお

【あらすじ】

若干のエロが入ってます。ほんまの若干です。気にならない程度に入ってます。

季節は夏。家族はみなプールに出かけていた、そこで家に一人残された京介は……

（前書き）

若干のエロ注意、ほんまの若干。気にならない程度だけど

季節は夏。俺にとっては最高の季節である。なぜなら、夏休みがあるからだ

そして、今は夏休み真っ最中。

今日は家族でプールに行っているらしい。

珍しいことに親父も行ってるというから驚きだ。

場所は近くの市営プールだ。

しかし、俺は一人自分の部屋の中だ。

何を隠そう、俺は泳げないのだ……

桐乃、母さん、父さんの三人で近くの市営プールに行ってるわけだ。そして、俺は部屋の中で桐乃に借りたノートパソコンでネットサーフィンだ。

別に、プールだなんて行きたくなかったんだ。そんなんしてるより最近ハマって

しまった、ネットサーフィンをしているんだ。

あつちはプールで泳いでるだろうけど、俺はネットでサーフィンしてんだよ。

ああ……自分で言っていて悲しくなるぜ……

まあ、気を取り直してPCでもつけるか……

えーと、スリープモード解除と……そしてブラウザを立ち上げるね。

この作業もだいたい手慣れてきた。

「さて、今日は何を見ようかな……」

ん？待てよ……今日は家族が家にいない……

よっしゃー！ー今日はエロ動画日和だ！！いや、俺は変態ではないぞ、そり

や男子高校生にPCなんて持たせたらみんな最終的にはこれをすることになるよ

な？これ世間の常識。

しかし、以前妹に履歴やらキャッシュやらでエロ動画を見てたことがばれたこと

があつたなあ、ハハハ……あんときはマジで焦った。しかし！！最近は今くばれ

てないぜ！！なぜなら履歴とか全部消し方を覚えて毎回消してるからな！！

ぬははは！、俺天才！！！！

まあ、妹のPCでエロ動画見るのは初めは抵抗あつたけど、今考えてみたら妹の

PCで妹ゲーを妹にやらされてるんだから、別にどうってことないよな。

さて、最近はF・2アダルトとTOK・OTU・Eが熱いなあ……どっちにしよう

？

よし、F・2アダルトだな！

検索検索と……メガネっ子に●出し……？これだ！！

そして、再生と……

30分の動画か……まあそこそ長いなあ、

20分後……

ガチャッ

「ねえ、私のゴーグル知らない？………ちょっ！あんなにやつてんの！」

不意に後ろから声がした。しまった、ヘッドフォン装備で、無警戒心だったから

足音すらわからなかった！………！！！！！！！！

「うわぁっぁぁっぁ」

俺は必死にブラウザのボタンを連打する、しかし連打すぎてPCにかなり

の負荷を負わせてしまい、PCが固まった。そして、声がしたほうへ振り返って

みると桐乃がいた……俺は、必死にPCの画面を体で隠す、だが時すでに遅し……

…桐乃は軽蔑の眼でこちらを見ている

「おお、桐乃？ど、どうしたんだ……？わわ、忘れものか？」

俺は必死に平常心を取り戻そうとする。

「あんた、今何やってたの？」

桐乃の顔が……言葉にできないくらい……怖い顔だ……ああ……

「え？ま、まあ、ほら！あのさア……」

俺の頭の中が真っ白になった

「それ誰のPCだっけ？」

「お前の……」

「この前もそんなサイト見てなかったけ？」

俺、閉口。

「しかも、また、メガネっ子……なにあんたそんなにメガネ好きなの？」

「いや……それは……」

俺は恥ずかしさと、気まずさのあまりなにも言えなかった。

「なんなの？男ってみんなそんな感じなの？それともあんただけそんなに性欲が

さかんなの？」

桐乃の目に涙がたまり始めた……よっぽどショックだったのだろう
か？この前も

泣いて怒っていた……こいち、こんなにちゃらちゃらした格好とか
していても、

基本まじめちゃんだからな……っていうかエロゲーでこっぴどくシ
ンよくあるん

じゃないか？

「このど変態。家族がいないからって……」

にしても妹に説教をくらうのはマジで屈辱。しかも理由はエロ動画

……

泣けてくる。

桐乃はそのまま部屋を出て行った。

部屋に残された俺は一人、ただただ固まったPCを見てため息をついた。

夕方、家族が帰ってきた。

そして、妹がまた俺の部屋にノックもせずに入ってきた。

「変態、PCちよつとかして……って……まだ見てんの!!?」

桐乃は俺の部屋に入ってくるなり、叫んだ。

「違うんだよ、これ、固まっちゃって動かねえんだよ……」

もう、開き直りだ。妹に解決してもらおう。

「はあ?なに?あんたそれ私に治してもらおうとも思ってたの?」
「??」

「まあ、そんなところだ。」

「あんた自分の妹にこんなの見せて恥ずかしくないの???」

もちろん恥ずかしいさ……でもなあ、でもなあ

「お前だつて自分の兄貴に妹ゲー(18禁)をやらして恥ずかしくないのか?」

今まで思っていた疑問が口に出た。

「そ、それは……二次元でしょ!!三次元とはまた違うもん」

「いや、このインターネット上の動画だつて二次元だぞ、ほら平面だし」

……屁理屈だな、なに言ってるんだろ?

「あんたばか?もういいわ、消してあげる……」

「頼んだ」

5分たつただろうか、俺の妹はまだPCを見ている、というよりキーボードとか

マウスに触らずずっと画面を見ているような気がするのだが、気のせいなのだろ

うか……？

「なあ、桐乃？」

「……………」

無視……いや、これは気づいていないな、

「桐乃！！」

「はっ！はい！！」

桐乃は体をビクッ！とさせて、キーボードをかちゃかちゃさせてP
Cの電源を切

った。まるで、俺がさっき見つけたときのようにな。

「お前……もしかして……」

「うるさい！！黙れ！！」

ものすごい剣幕で部屋から出て行った、かと思ったらまた戻ってきて、P Cを持

ってまた出て行った。……あいつやっぱりああいうの興味あるのか

……？年頃だ

しな……

しばらくして、桐乃がまた入ってきた。

「はい！P Cにフィルターを入れたわ！」

フィルター？なんじゃそりゃ？

「フィルター？」

「そう!!」

「なにそれ？」

「は???まさか、あんた知らないの？」

「ああ……知らないけど……」

そういうと桐乃はいきなり笑いだした。

「なに笑ってんだよ？」

桐乃は一瞬こっちを見て、にやっとして部屋を出た。
なんなんだ……？

次の日俺は昨日途中までしか見れなかった動画を見ようと、F●2
へ行こうとし

たが

「なんじゃあこりゃーーーー!!!!!!」

PCのディスプレイに表示されていたのは、

『以下のサイトはアダルトカテゴリによりブロックされました』
の文字。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8553r/>

俺の妹がこんなにタイミング悪いだなんて

2011年10月6日16時34分発行